

卒業式・専攻科修了式 告辞

千歳川に桜が薫る季節を間近に控えた早春のこの佳き日に、多数のご来賓の皆様のご臨席を仰ぎ、平成28年度久留米工業高等専門学校卒業式並びに専攻科修了式を挙行できますことを、卒業生・修了生はもとより、本校教職員一同、まことに光栄に存じます。高壇からではございますが、ご多用中のところ、ご臨席賜りましたご来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。

本科卒業生・専攻科修了生の皆さん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。卒業生・修了生の皆さんは、「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」という本校の教育理念を立派に体得されて、今日の日を迎えられました。皆さんのこれまでのご研鑽とそれを支えてこられました保護者の皆様のご篤志に深く敬意を表します。

さて、高専教育の特長は、実践を重視した工学教育にあります。高専教育は、実践（実験・実習・演習）から理論（講義）へという教育方法論に基づいて行われています。いわば、「手」で始まり「頭」でまとめる教育であります。実践をエンジニアリング、理論をサイエンス、と言い換えることも可能かと思えます。そして、実践と理論をスパイラルアップ（善循環）させながら創造性を育んでいく。そこが、ものづくり教育における大学工学部や工業系大学との大きな差異であり、優位性でもあります。また、それゆに、高専はこれまで数多くの実践的かつ創造性豊かなエンジニアを輩出し続けてきました。

しかし、皆さんのご卒業・ご修了に際して、実践と共に理論も同じくらい大切であることを、次の2つの事例に即して、申し上げたいと思います。

1つは、久留米の誇るべき偉人の一人であり、江戸時代の末期から明治の初期に活躍された、“からくり儀右衛門”こと、田中久重さんの生涯であります。田中久重さんは、東芝の創業者としても知られています。この方は、単なる職人や技術者ではありませんでした。田中久重さんは、からくり人形を製作したり、井上傳さんの依頼を受けて久留米餅の機織り技術を改良したり、圧搾空気による給油式の灯明である無尽灯や、一度巻けば一年間も動き続けるぜんまい式和時計の万年自鳴鐘を発明したりと、生涯数え切れないほどたくさんのもので行ったことで有名です。しかし、その一方で、天文学を修めたり、蘭学を学び西洋の自然科学をも吸収したりしていました。そうでなければ、佐賀藩や幕府のために蒸気船や通信機を製作したり、久留米藩のために製造所・製鉄所を作ったりすることはできなかったと思います。

いま一つは、世界のHondaの創業者本田宗一郎さんの体験であります。戦前の1939（昭和14）年、本田宗一郎さんは、故郷の浜松で東海精機（株）という会社を立ち上げ、自動車修理工場から転じてピストンリングの製造を始めました。しかし、その製造は、思うほど簡単ではありませんでした。後に日本人で初めてアメリカの「自動車殿堂」入りを果たす本田宗一郎さんですが、その当時のことを「一生のうちで最も精魂をつくし、夜を日に継いで苦吟し続けた」と回顧されています。

50人の社員を抱え、「絶体絶命のピンチ」に追い込まれた本田宗一郎さんは、自分の理論の不足に気づきます。

「こう思うようにいかないのは、私に鋳物の基礎知識が欠けているためだと気がついたのはそのときだった。…そこでやはり大きく飛躍するには根本的に基礎からやり直すべきだと思い、当時の校長安達先生にお願いして、浜松高工（現静岡大学工学部）の聴講生にしてもらった。…このときの勉強が大いに役に立ち、物を考える際とか技術上の疑問点を問いただすときなどの基礎となった」と自伝に記されています（『本田宗一郎 夢を力に 私の履歴書』）。

本田宗一郎さんが聴講された旧制浜松高等工業学校)が本校の前身である久留米高等工業学校と同じ学校種であったことはとても興味深いことでもあります。

いずれにせよ、田中久重さんの生涯や本田宗一郎さんの体験は、実践と理論の双方を血肉化してもつづくりに打ち込むことの重要性を私たちに教えてくれています。

卒業生・修了生の皆さん、これからも実践（エンジニアリング）と共に理論（サイエンス）をも大切に学び続けてください。

先の田中久重さんは、「知識は失敗より学ぶ」と述べられています。また、本田宗一郎さんも、「私がやった仕事で本当に成功したものは、全体のわずか1%にすぎない…99%は失敗の連続であった」と述べておられます。

卒業生・修了生の皆さんが、久留米高専の学業生活で修得したことを礎にして、なお一層の研鑽と精進を積み重ね、失敗を恐れず、常にチャレンジ精神をもって、堂々とエンジニアの道を歩んで行かれることを祈念し、本科第52回卒業式・専攻科第23回修了式の校長告辞といたします。

平成29年3月15日

独立行政法人 国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校長
三川 譲二